

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	理念として「ゆとりある快適な生活環境を提供し、ノーマライゼーション理念のもとで、心身ともに健やかに自立した人生を全うできるように、その環境・年齢及び心身の状況に応じ、地域において必要な福祉サービスを総合的かつ包括的に提供される様に援助することを目的とします。」を作成している。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	フロア入り口、事務所、リビングに理念の文章を掲示し、個々に確認しながら、実現に向けて取り組むよう心がけている。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	契約時に入居者・ご家族に理念の説明を行い、また、いつでも確認していただけるようフロア入り口、事務所、リビングに理念の文章を掲示している。また、4ヶ月に1回の「のぞみだより」を発行し、入居者ご家族、町内会、地域の方々に送付しホームの状況をお知らせしたり、運営推進会議にて報告している。		今後もご家族や地域の方々により理解していただくことが出来るよう取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近隣のご家族がいつでも遊びにきていただけるよう、散歩時などに挨拶や会話をすることで親しみやすい環境作りに取り組んでいるも、気軽に立ち寄っていただけることは少ない。		今後はより親しみやすい付き合いができるよう、挨拶や話かけを続けて行きます
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の催しもの(カラオケ教室・絵手紙教室(2週間に1回)・夏祭り)に参加させていただいたり、月1回の「パン教室」に町内会の方たちに参加していただき交流を図っている。		今後も催しものには積極的に参加させていただき地域の方たちとの交流を図っていきます。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	定期的に行う「運営推進会議」に町内会や包括支援センターの方に参加していただき、ホームの状況や地域の状況などの情報交換を行っている。		今後も「運営推進会議」などの話し合いの場を通じて取り組んでいきます

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	スタッフに実施の意義を説明し、理解したうえで評価を行い、改善が必要と思われる項目に関しては、改善に向けて取り組んでいる。外部評価においては、スタッフに外部評価について事前に説明を行い、理解したうえで実施できるよう取り組んでいる。		スタッフ一人一人が自己意識を高めることができるよう説明し実施していく。
8 運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、入居者様の受診状況や行事などの活動報告を行っており、ホームでの取り組みについて参加者に理解・把握していただけるよう話し合いを行っている。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議以外では、福祉事務所や保健所の担当者と関わる機会を大切にしている、相談や確認があれば電話連絡を行う等、市町村との連携を密に行っている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	現在において、地域権利擁護事業や成年後見制度を必要とされる方がいない為、活用する機会はない状況である。		今後もスタッフの研修会への参加を促し、地域権利擁護事業や成年後見制度において必要とされる方がいた場合に、速やかに対応できるよう取り組んでいきたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	身体拘束委員による定期的な会議を行い、入居者様の現状を見直し拘束や虐待に当たる行為はないかその都度話し合いを行っている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、利用料や医療連携体制、入居にあたっての留意事項など契約書や重要事項説明書に基づいて説明を行っている。また、事前にご家族やご本人にホーム内を見学していただき、スタッフや他入居者様、部屋の雰囲気などを実際に見ていただき、理解・納得していただけるよう説明を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々の生活の中で何でも話そう出来るよう馴染みの関係作りに取り組み、会話の中や表情・行動にて意見や不満を読み取ることが出来るよう観察している。また、町内会の催し物や町内会の方たちを招いての「パン教室」にて馴染みの関係作りを図り、話が出る環境を設定している。利用者からの意見などが聞かれた場合は日々の申し送りや毎月のユニット会議にて検討している。		今後も利用者から気軽に何でも話していただけるよう馴染みの関係作りを取り組んでいきたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族来所時には暮らしぶりや健康状態を報告し、状態変化時には電話にてその都度、報告・相談をしている。また、毎月1度の「ご家族様への手紙(写真付き)」にて月ごとの金銭状況(預かり金)と1ヶ月の入居者や職員の状況を報告している。また、誕生会などの行事時にスクリーンにて日頃の写真やビデオを上映している。		今後も入居者、ご家族に合わせた報告を行い、ご家族により安心していただけるよう取組んでいきたい。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族来所時に職員と話をする機会を作りコミュニケーションを図ると共に、玄関に「意見箱」、フロア入り口に「苦情処理について」の文章を掲示している。また、「運営推進会議」にて家族からの意見などを聞かせていただける場を設けている。また、ご家族よりいただいた意見はその後改善できるよう会議などにて話し合い取り組んでいる。		今後もご家族が気軽に意見などを話そう出来るよう場作りをしていく。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のユニット会議にて職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、意見や提案が反映できるよう会議にて話し合いを行っている。		今後も職員が積極的に意見や提案が出来るよう、よりよい関係作りにも努めていきます。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	行事や予定など事前に対応できることに関しては、勤務表の調整を行い変化や要望に沿った対応が出来るよう努めている。また、緊急の場合に関しては、管理者又は夜勤明けの職員にて対応することとなっている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	移動や離職があった場合には利用者の状態に応じて、理解・納得していただけるよう事前に繰り返し説明を行っている。移動・離職後、または新職員入社後は、他の職員が協力してサポートしあい利用者心身の安定を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>1ヶ月に1度のユニット会議や市町村で行われている研修や実務者研修・管理者研修に参加している。</p>	<p>ユニット会議での勉強会を今後も継続していく。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>道南グループホーム協議会の研修会や勉強会、交流会等へ参加したり、そこで得た情報や意見を当ホームにて活かせるよう努めている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>定期的に運営者・施設長とスタッフとの面談を行い、悩みや不満など話し合いが出来る場を設けている。また、親睦会などを行いスタッフ同士のコミュニケーションを図る場を設けている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員とのコミュニケーションにて状況を把握し、各職員が意欲的に働くことが出来るよう努めている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前には事前にホームを見学していただき、スタッフや他入居者、居室の作りなどの雰囲気をご本人に感じていただけるよう努めている。また、ご本人と話をする機会を設け、現在の率直な気持ちや今後の希望などを聞き、ご本人が安心して入居の日を迎えられるよう努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前面談を行い、利用に至るまでの経緯やご家族の不安や希望などを聞く機会を設け、ご本人・ご家族共に安心して入居の日を迎えられるよう努めている。</p>	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>相談の窓口を決めて時間を作り対応し、本人が必要とするサービスがあれば序言している。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前の面談にて本人やご家族から希望や要望を聞きスタッフに伝えると共に、見学にきていただき、ホーム内の案内や他入居者・スタッフの紹介を行っている。また、馴染みの物を使用していただきたいことを伝え、本人・ご家族と相談しながら居室の配置を行っている。</p>		<p>一人ひとりの状態に合わせた対応を行いながら、本人が納得・安心して入居することができるよう取り組んでいきます。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>本人の行えることを本人やご家族から教えていただき、日常的に自然に行える環境を設定していく。また、本人の行えることから他入居者様や職員が学んだり、支えあう関係を築くことができるよう努力している。</p>		<p>日常の会話にて本人のできる事や昔やっていたことを模索し本人の負担にならないように実施・支援行なっていきたい。又、皿洗いや縫い物等は常時スタッフと共に行なっている。</p>
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ご家族の来所時、定期的な電話や連絡、毎月1回のご家族への手紙、クリスマス会、敬老会等、ご家族が参加され利用者と一緒に楽しむことが出来る行事を企画し、日常生活の様子を伝えている。その際、ご家族の思いを受容し、協力関係を築いていくことができるよう努力している。</p>		<p>今後も御家族との協力体制を強化しスタッフ・御家族様と一緒に本人が過ごしやすい環境を築いていきたい。</p>
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>ご家族の来所時や定期的な電話連絡時に日常の利用者様の様子を伝えている。また、誕生会や敬老会など行事時にご家族への参加を促し、利用者のご家族が交流できる場を設定・提供し、よりよい関係を築いていくことが出来るよう支援している。</p>		<p>ご家族が行事などに参加しやすい環境を設定(曜日・時間帯等)していきと共に楽しんで参加していただけるよう工夫・努力していきたい。</p>
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>生活暦や御家族からの情報を活用し、出来るだけ本人のそれまでの生活を継続することが出来るように支援している。又、今まで使っていた物(タンス、ぬいぐるみ等)を御家族と協力し居室の配備している。</p>		<p>美容室や買い物等の外出や、植物や畑仕事など、その方の生活習慣を尊重して支援していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日々の利用者の表情や言動を観察し、利用者同士の関係を把握するよう努めている。また、日常生活に職員が間に入り、利用者が孤立しないよう会話などの橋渡しをトラブルなどのおきないよう支援している。又、レクや体操時は参加を促し入居者様同士の交流をはかっている。		日々の生活の中に、利用者同士が交流を図れる機会を提供し、利用者様同士が関わりあい、支えあえるよう支援していきたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去した入居者様のお見舞いを御家族の了承を得て行っている。又、町会の行事(忘年会やカラオケ教室等)に参加し顔を合わせる機会を作っている。		今後も関係を断ち切らないようお見舞い等こまめに足を運ぶようにする。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のコミュニケーションやご家族からの情報にて、希望や思いをくみとり、把握に努め出来る限り対応している。意思疎通が困難な場合は御家族からの情報や表情観察を行い本人本位に検討行なっている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	他施設入所している場合はケアマネージャーに情報を聞き、自宅からの場合は契約時にご家族よりこれまでの暮らしの情報収集を行う。また、その後の生活の中での本人とのコミュニケーションやご家族来所時に話を聞くなどにて随時収集している。		生活の中でコミュニケーションを多くとり生活歴や馴染みの環境等についての情報を引き出していきたい
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	本人・ご家族からの教えていただくと共に、職員全員にて日々の利用者の観察を行い、それをもとに利用者一人ひとりのアセスメントを行っている。アセスメントから1日の過ごし方や心身状態、有する力などを把握し、本人の負担にならないかを常に確認しながら出来ることを行っただき自立への支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	全職員にて本人やご家族の希望や要望を収集し、毎日の申し送りや毎月のユニット会議にて情報交換を行っている。また、担当職員・介護支援専門員を中心としながら介護計画の見直しや作成を行い、実行に努めている。		今後も御家族が希望・要望を出しやすい環境を作るのと共に職員間の情報交換もより一層密にしていきたい。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>全職員にて日々の生活や病院受診、ご家族来所持や電話などから状態・情報の収集を行い、毎日の申し送りなどにて意見交換を行っている。それに伴い、各担当職員や介護支援専門員を中心に介護計画の見直しを行い利用者の状態に合わせた計画を作成している。</p>		
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個人記録に関しては、介護計画を中心に介護計画に反映することが出来るよう各職員がそれぞれ具体的な報告や記入を行っていると共に、連絡・病院受診・家族連絡ノートに詳しく記入し、各職員が確認している。会議時には個別記録をもとに全職員にて検討し介護計画に活かしている。</p>		<p>今後も報告・連絡・相談を密に行い情報の共有をしっかりとっていききたい</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>日々の団欒やコミュニケーションの中から本人の希望や要望を聞きだすと共に、ご家族来所持や電話や毎月の手紙の際に日々の状況を説明し意見や要望を速やかに取り入れることが出来るよう、職員間の連絡を密にし、介護計画に反映し、柔軟な支援を行っている。</p>		<p>今後、より一層本人やご家族とのよりよい関係を築き情報交換や相談を行いながら柔軟な対応を行っていききたい。</p>
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	<p>開設時より、周辺地域の施設(警察)へホームの情報を伝え、ホームの理解を広げるよう働き掛けを行っている。また、定期的に消防の職員同伴での避難訓練を行っている。その都度ホーム内の情報を提供することで、協力を得られるよう働きかけている。</p>		<p>今後は、消防や警察などの施設だけではなく、近隣の方や町内会の方々にも情報を提供し、理解・協力を得られるよう積極的に働きかけていきたい。</p>
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>	<p>包括支援センターや他のケアマネジャーと日頃から連携を取っている。在宅復帰の為退去された方の情報交換など連絡を取っている</p>		<p>今後も常に包括支援センターや他のケアマネジャーと連携をとっていく。</p>
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	<p>定期的に行っている「運営推進会議」に参加していただき、利用者の状況や活動の報告、支援センターからの情報をいただいたり、必要に応じて連絡を取り合っている。</p>		<p>今後も支援センターと連携を図り、状況や活動の報告を行いよりよい関係を保ち協働していく。</p>

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>利用相談時にかかりつけの病院や医師を確認すると共に、協力病院の紹介と説明を行い、入居後のかかりつけ医を本人・ご家族と相談している。また、入居前の説明にて24時間の医療連携体制を行うことを納得していただいている。また、協力病院の定期的な往診もあり、各かかりつけ医と随時状態を報告しながら支援している。</p>		<p>今後も本人・ご家族への都度の相談や確認を行い、希望に沿った医療を受けることができるよう支援していきたい。</p>
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>必要に応じ、スタッフと利用者で病院を受診し、その都度医師に相談し、治療が受けられるよう支援している。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>看護師は配置しておらず、必要時にかかりつけの病院と連携を図り、その都度、指示を頂いている。往診とは別に定期的にかかりつけ病院の看護師による採血、注射、血圧測定などを行なっている。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院が決まった際には、職員が付き添い日々の生活状況や身体、精神状態を報告している。また、定期的に病院へ面会に行き、本人やご家族と話をしたり病院関係者との情報交換や相談を行っている。退院が決まった際には病院関係者と職員にて引継ぎを行っている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>入居前の相談や契約時にご家族に確認しその後は本人の状態に応じてご家族に確認や相談を行っている。また、病院受診時に状態の確認を行いながら必要にあわせて医師に確認を行い、その後全職員に報告し共有に努めている。</p>		<p>今後も重度化や終末期に向けた方針を共有できるよう、ご家族やかかりつけ医との定期的な話し合いを積極的に行っていきたい。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>必要時は、かかりつけ医・看護師・ご家族・施設長・職員にてカンファレンスを定期的に行い、その後、全職員に報告を行なっている。また、日々の申し送りにてその日の状態に応じた対応の方法や医師への連絡をこまめに行い、利用者がホームにて日々をより良く過ごすことが出来るよう取り組んでいる。</p>		<p>今後、対象となる方がより良く日々を過ごすことが出来るよう検討や準備を行っていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p> <p>在宅へ復帰されるケースがあったが、ホームへの生活の様子はご家族面会時など常におこなっている。居宅のケアマネージャへ情報提供したり、環境の変化によるダメージが軽減するように配慮している。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p> <p>利用者の性格や状態を把握し、一人ひとりを尊重した言葉かけや対応を行うよう心がけている。また、個人情報に関してはプライバシー確保に努めているが、必要な場合に関しては、契約時に個人情報利用同意書にもとづいての説明を行い、ご家族から同意をいただいている。</p>		<p>スタッフ間で確認を行いながら、利用者を尊敬、尊重した言葉使いや対応を心がけているものの、今後も各スタッフが再認識しプライバシーの確保を徹底していきます。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p> <p>日々の団欒やコミュニケーションを密にとり、スタッフ間での情報交換を常に行いながら、利用者一人ひとりの心身の状態の把握に努め、利用者それぞれにあった説明や選択の場を提供し、自己決定できるような声掛けをこころ掛けている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p> <p>入居相談時や来所時などに、ご家族から生活状態を教えていただいたり、日々の観察やコミュニケーションから本人の希望を感じ取り、出来るだけ希望にそった馴染みのある生活を送っていただけるよう支援している。</p>		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p> <p>ご本人に希望や馴染みの店があるか確認し特に馴染みの店がない方に関しては、本人やご家族と相談しながら理容、美容室を選択し支援している。外出、イベント時は服を選んでいただき、着物などを着る入居者様もいます。また、イベント時には化粧をする女性の方もいます。</p>		<p>ご家族に相談し、タンスに眠っている服などないか聞き、持ってきていただき、入居者様の選択しを増やしたいと思います。入居者様が使っていた、馴染みの化粧品などを家族の方に聞き、ホームでの生活の中に取り入れたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p> <p>今までの食事の習慣や嗜好、味付けなどの確認を行い、おいしく食事を摂取していただけるよう心がけている。利用者の出来ることを考慮しながら、一緒に準備や調理を行い、利用者・スタッフが一緒に食卓を囲みながら楽しく食事を摂取していただけるよう心がけている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	現在喫煙者はいない。好みの飲み物やおやつなどその時に応じ別メニューにて対応している。毎日飲酒される方はいないものの、行事などの際に飲酒の確認を行い、医療的に問題のない方には飲酒を楽しんでいただいている。		日々の団楽やコミュニケーションにて嗜好や希望の確認を行い、その時々に合わせて支援を行います。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の排泄状態の把握を行っている。状態に合わせた誘導を行い、トイレにて気持ちよく排泄していただけるよう支援している。また、失敗時には本人の自尊心を損なうことがないよう配慮しながら清潔保持に努めている。		今後も常に排泄パターンの把握を行い、トイレにて排尿できるよう支援します。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的には毎日の午後が入浴の時間になっているが、入浴の時間や間隔は利用者の希望に合わせて心地よく入浴していただけるよう支援している。		その時の身体、精神状態に応じて利用者の負担になることがないよう支援します。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	本人やご家族から生活習慣を教えていただき、睡眠時間の把握を行うと共に、使い慣れた寝具やパジャマなどを使用することで安眠していただけるよう支援している。不眠の場合は話を傾聴し安心、安眠できるような促しを行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	本人やご家族から生活歴や得意なことを教えていただいたり、日々の生活の中から得意なこと、出来そうなことを観察し、個々の状態に合わせてそれぞれ役割として家事作業を行っていただいている。外出希望がある方には外出や町内会の催し物や美容室、散歩など気晴らしが出来るよう支援している。		個々の性格や力量、状況に合わせた役割分担や楽しみごとが持てるよう支援していく。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人からの希望がある場合は、ご家族と相談の上にお金を所持していただいている。買い物など希望がある時はほしい物の選択、支払いなどの見守り、手助けを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	外出の希望時には、出来るだけ希望に沿うことが出来るよう支援を行っている。どうしても希望時に外出が出来ない時は、違う日を決めて理解していただけるよう会話している。		希望時に外出が出来ない状況のときに、利用者の不安や不満に繋がることのないよう配慮します。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	日々の団樂の中などから、行ってみたい場所を教えただき企画を立てている。大沼、お花見やさくらんぼ狩り、外食などご家族にも参加していただきながら外出支援を行っている。		今後も日々の団樂の中から利用者が行きたい場所を聞き出し、ご家族の協力も得ながら外出支援を行っていきたい。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の希望をされる方には繋ぐ介助や見守りを行いながら自由に電話を利用させていただいている。手紙や年賀状など希望される場合は住所を確認し、投函している。		今後もご家族の協力を仰ぎ、利用者がいつでも御家族とコミュニケーションが取れ不安にならないよう、希望に沿った支援を行っていきたい。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問の時間帯などは決めておらず、いつでも自由に来ていただいているが、夜間に関しては他利用者の就寝の関係にて出来る限り事前に教えていただけるよう協力をお願いし訪問していただいている。訪問の際にはリビングだけではなく居室など好きな場所でお茶などを飲みながらゆっくりと団樂していただけるような場を提供している。		来訪者が気軽に訪問でき、ゆっくりと話ができるような環境作りを心がけている。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所内に身体拘束歯医師委員会の担当を設置しており、委員会の開催、研修会に参加し定期的な確認を行いながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		今後も委員会の定期的開催、又研修会に参加し身体拘束を防止し利用者の人権を尊重した支援を行っていきたい。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は利用者を尊重し自由に生活できるよう取り組んでいる。御家族、訪問者には心理的に圧迫をもたれることがないように居室、及び全ての施錠は行っていない。夜間に関しては御家族などの訪問予定がない場合は20時を目安に1階玄関の施錠を行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中、リビングには必ず職員が1人以上は居るようにし、団欒、家事手伝い等を行いながら利用者の安全に配慮を行なっている。夜間は定時に巡回をし利用者の安全や入眠状態を確認している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	居室内の所持品については利用者の個々の状態に合わせて対応を行なっている。又御家族から本人への差し入れなどを誤嚥などの危険を防ぐ為、スタッフで預かることを御家族に同意を得て危険を防いでいる。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ユニット会議での勉強会に取り入れ事故防止に努めている。また、ふらつき強く見られる利用者は夜間の巡回を多くしたりと見守り行っている。転倒あった場合は「事故報告書」を作成し会議にて検討して再発防止に取り組んでいる。		事故防止に対する勉強会を行い知識の向上に努めていく。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	訓練は行っていないが、ユニット会議等で勉強会を開き知識の向上に努めている。又、緊急時の事故対応マニュアルを作成している。		応急処置などの勉強会定期的開催し。知識の向上に努め更に訓練も行っていきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	ホーム内での避難訓練(日勤帯、夜勤帯での火事や地震)を定期的に行なっている。運営推進会議にて避難訓練の報告を行い町内会の方々へ協力を働きかけている。		今後は御家族や地域の方々へ避難訓練に参加して頂けるよう働きかける。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	利用者一人ひとりに対するリスクを話し合いを御家族に説明している。その人らしいサービスの提供出来るよう心がけている。		一人ひとりの状態、能力に応じた介助や対応をユニット会議で話しあっている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々のバイタル測定や食事量、尿量、排便確認、表情や行動の観察を行い、異変時はスタッフ同士話し合い、病院受診を行なっている。その都度報告を病院受診ノートへ記載し情報を共有を行なっている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個別に「与薬一覧表」を作成し確認行なっている。入居者の方その時の状況に合わせて錠剤や粉末等にして頂けるよう医師に相談行なっている。		服薬時の確認また内服変更時にその薬の作用副作用なども調べている。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	日々の排便確認を行い、便秘にならないよう運動を行っている。さらに牛乳、野菜、食物繊維の食べ物等排便を促しやすい飲食物を摂っていただいても、排便が出づらいようなら医師に相談し薬等にて調整行っている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の口腔ケアや定期的な義歯の洗浄にて清潔保持に努めている。又口腔内の異変には歯科医院で往診していただく。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食事の食事量、水分量の確認に努めている。食事内容に関しては栄養バランスの取れた食事を提供し、又食事の水分以外でも水分補給促し行なっている。個々の身体状況合わせ刻み、お粥、子盛り対応にて支援している。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	「感染予防マニュアル」がある。手洗い後のタオルをペーパータオルにしたり、「ヒビテン」や「メイプルラビング」などを使用している。また、毎年ご家族の同意のもとに「インフルエンザの予防接種」を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>日々の台所清掃や調理器具の消毒を行うことで、衛生管理に努めている。食材は1週間に2回の買出しを行い、新鮮な食材を提供できるようにしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関前にはスロープがあり、ベンチや置物を設置している。玄関がおくにあるため、看板を道路付近、玄関前に置いている。</p>		<p>近隣の方々に気軽に立ち寄っていただけることは現在少ない状況となっている。今後、より親しみやすい付き合いができるよう挨拶や話しかけ、環境改善を行い、気軽に立ち寄っていただけるような日常的な付き合いに努めていきたい。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>テレビの音量や光の入り方など利用者の意見を取り入れ、カーテンなどで自由に調節できるよう配慮している。トイレは異臭がしないよう、1日2回のトイレ点検を行い、消臭や清掃、消毒を行なっている。リビング内に季節のものを配置したりプランターで野菜を育てたりと季節感を感じられるよう工夫している。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>構造上、リビング内には1人になれる間所はないも、個々の居室にて一人になれる場所はある。ソファを4台設置し利用者が自由に座れるよう配慮している。食卓での座席やリビング内では利用者同士の相性も考慮し、安心して過ごしていただけるよう工夫している。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>利用者やご家族と相談しながら、在宅時に使用していた家具や写真などを持ってきていただき、今まで生活してきた空間と変わらないよう自由に設置していただくことで居心地のよい空間作りに取り組んでいる。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>定期的な窓の開閉や、換気扉の使用にて換気を行っている。室内の温度や湿度に関しては、温・湿度計を設置し都度確認を行いながら調節している。</p>		<p>毎日温度計、湿度計を確認し、室内の温度の調整を行なっている。利用者に話を聞き寒くない時は換気を行なっている。</p>
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各居室のドア横、廊下、トイレ、浴室、階段などに手すりを設置。また、浴室内には滑り止めを設置し、浴槽は自立・介助の方も入れる浴槽にしている。広いトイレもあり、車椅子使用の方でもスムーズに出入りできるようにしている。		今後も、各利用者の認知や身体状態の変化に合わせてながら、その時にあった環境を検討し、安全に出来るだけ自立した生活が送れるよう設定していく。
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	各居室の前に表札を設置したり、トイレのドアをオレンジ色に統一することで混乱のないよう工夫している。また、トイレを間違えないよう奥にあるトイレには張り紙をしている。		居室やトイレなど、迷われることなく過ごしていただけるよう、今後も各利用者の認知や身体状態の変化に合わせてながら、その時にあった環境を検討していきます。
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ホーム横の芝生にておやつをいただいたり建物の周りの空間を活用し楽しめるようにしている。また、家庭菜園にて野菜などを栽培することで、利用者と、草取りや収穫を楽しんでいる。玄関にベンチを設置しており外で気分転換や会話を出来る空間を作っている。		利用者の意見を取り入れながら、行事を企画したり、日々の活動を行うことで、より一層楽しみの持てる空間作りに努めていきます。

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない

サービスの実績に関する項目		
項目		取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

- (日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
- ・日々の生活を楽しんでいけることを心がけ、常日頃取り組んでいる。
  - ・ゆっくりした場作りをし、会話の中で笑っていただけるよう入居者様の好きな話、冗談話などたくさんしている。
  - ・月に数回はイベントを行い、生活に張りが出るよう心がけている。
  - ・外出を多く取り入れ、買い物やドライブなど気分転換が出来る場作りをもうけている。
  - ・近隣の町会とお付き合いをさせていただき、夏祭りやカラオケ教室、絵手紙教室などに参加している。また、ホームにて月1回パン教室を行ない町会の方にも参加して頂き交流を図っている。